☻☻☻

方後方墳）があるだけです。この古墳が造られた時期は出土した土器から 4 世紀後半と考えられています。古墳に埋葬された人物は新田川を中心とする広い地域を支配した有力者であったと考えられています。東北地方の古墳文化を知るうえでは、極めて重要な遺跡であるといえます。もともと桜井古墳の周辺にはたくさんの古墳があったといわれていますが、現在では墳丘を残している古墳は 12 基だけです。

桜井古墳を説明する玉川先生

桜井古墳前方部から後方部を望む

泉官衙跡

泉官衙遺跡は、阿武隈山地から太平洋に向い東流する新田川と、その北岸に展開する丘陵の間に形成された狭小な河岸段丘上に立地する古代の官衙遺跡です。遺跡の所在する南相馬市は、古代の行政区域では陸奥国行方郡に属し、遺跡の北 1.5 キロメートルの位置には、古代における日本最大級の製鉄遺跡群である金沢地区製鉄遺跡があります。遺跡の所在する南相馬市原町区泉には、古くから建物の礎石が残り、古瓦・炭化米も採集されたことから、その散布範囲は平安時代の寺院跡（泉廃寺）とみなされてきました。1994 年当時の原町市（現・南相馬市）教育委員会のほ場整備事業に伴う発掘調査で、遺跡の範囲は東西 1 キロメートルにわたる広さをもつことが判明しました。これをうけて市は遺跡の主要部分の保存を決め、2000 年（平成 12 年）から遺跡の内容確認のための発掘調査を実施したところ、政庁域、正倉域、館と考えられる遺構が確認されました。検出した建物群は、大きく分けて 3 時期の変遷が確認されています。Ⅰ期は 7 世紀末から 8 世紀初頭で、建物群の主軸は真北から東に振れた方位となっています。政庁域は遺跡中央の寺家前地区にあり、桁行 4 間、梁行 2 間の掘立柱建物の正殿と、それを「ロ」字形に囲む掘立柱塀で連結された前殿、後殿、東西脇殿の四棟の掘立柱建物からなっています。その北西には正倉を構成する総柱式掘立柱建物群がありますが、区画施設は確認されていません。Ⅱ期は、8 世紀初頭から後半で、建物群の主軸方位はほぼ真北に変わります。政庁域の位置と規模、建物配置はほぼⅠ期を踏襲するものの、正殿は四面廂付建物となり、前庭部分は玉石敷となっています。正倉域は政庁域の北西約 240 メートルに移り、礎石総柱建物群が素掘の溝と掘立柱塀により区画されています。また政庁域から北西約 520 メートルの町池地区には館と推定される掘立柱建物群があり、周囲は南面に八脚門を構えた掘立柱塀により区画されています。Ⅲ期は 8 世紀末から 10 世紀前半であり、政庁域、正倉域ともに規模が拡大されますが、政庁については前殿が失われ、後殿と東・西脇殿は独立した建物となっています。また政庁域の南方には、新田川旧河道から延びる運河が開削され、その周囲に掘立柱建物群からなる施設が造営されますが、Ⅱ期に成立した館は姿を消しました。

泉官衙跡で説明を聞く

泉の館跡

泉の館跡は、東北電力総合技術訓練センター入口北側の丘陵にある中世の自然地形を利用して築城した山城跡で相馬氏の流れをくむ泉氏の居館と伝えられています。

泉氏は元亨３年（1323）ごろ下総から奥州行方郡に下向した相馬重胤に従った泉宮内大夫胤康を初代とし、戦国時代には、泉藤右衛門胤政が禄地を与えられ、勢力を持っていたが、慶長２年（1597）牛越城築城に際し問題を起こし、相馬義胤の裁断を不服として泉の舘に火を放ち、会津に走り上杉景勝の家臣となりました。

その後は小高の岡田八兵衛宣胤がこれを領有し慶長 16 年（1611）相馬氏の中村城へ移住するまで近くの館越の平館に居住しました。

横手廃寺跡

現地には「日ノ丸石」と称される円形の礎石があります。周辺から古瓦が出土したことから昭和３３年に県史跡に指定されました。

発掘調査は、礎石がある所有者の折笠家の建替工事を契機とし、2013 年６月から８月まで実施されました。

発掘調査では、礎石がある土壇様の高まりは一辺約 14.4mの正方形基壇であると確認され、塔跡であるとほぼ断定されました。さらに今まで心礎の可能性があるとされた礎石（「日ノ丸石」）も塔心柱の位置にあると確認され、この礎石が原位置を保つならば、心礎であるとされました。また周囲には溝跡や杭の痕跡などが発掘され、基壇は側面を木材によって覆う「木装基壇」であろうと推定されるに至りました。

横手廃寺跡の見学

横手古墳群

南相馬市鹿島区横手に所在する横手古墳群はＡ支群 11 基、Ｂ支群 4 基からなり、Ａ支群の 1 基が帆立貝式古墳で、他はすべて円墳です。鹿島の町から県道 120 号線を北へ進むと、常磐線の踏切の手前西側の農地の中に多数の円墳が点在しているのがＡ支群です。また、東側の常磐線を越えた国道 6 号線沿いに A1、2 号墳があります。A1 号墳は全長 31m、後円部径 19m の帆立貝式古墳でしたが、国道工事で前方部が削られてしまいました。主体部は切石造りの横穴式石室です。国道の向かいに 2 号墳がありますが、薮に覆われています。

A 支群から西へ 500m 進むと、鳥居があり、そこに横手古墳群の説明板があります。さらに参道を北へ進むと初發神社があり、B1 号墳の墳丘上に社殿が建てられています。径 40m の大きな円墳で、周溝が良好に残っています。埴輪片が採取されています。初發神社の裏にも円墳である B2 号墳があり、神社の西隣には B3 号墳があります。

横手古墳群

真野古墳群

真野古墳群は、南相馬市の北に位置する鹿島区（旧鹿島町)に分布しています。本古墳群は、真野川の西岸に広がる比較的平坦な低丘陵上に営まれており、A 地区と B 地区の 2 つの地区に分布しています。

現在、真野古頃群は A 地区と B 地区を合わせて、約 120 基の古墳があることが確認されており、その内、比較的状態の良い古墳は、国の史跡に指定されています。A 地区で 26 基 、B 地区で 14 基が国指定となっています。

A 地区には、2 基の前方後円墳と約 100 基の円墳が分布しています。2 基の前方後円墳は全長 25m 前後の比較的小型の古墳、円墳は、直径が 21m の墳丘を持つものが最大であり、ほとんどが直径 10～20m の小型の古墳です。いずれも周溝を持つものであると考えられています。埋葬施設は、竪穴状や横穴状の石室を持つものがあります。また、割竹式木棺や箱式石棺を持つものなども調査されており、埋葬形態は多様です。出土遺物は直刀や金銅製双魚袋金具、馬具などの鉄製品や金銅製品、勾玉、ガラス玉、石製模造品、6 世紀の土師器などがあります。埋葬施設の構造や出土遺物より、6 世紀に築かれた古墳であると考えられています。

B 地区は 19 基の円墳で構成されている群集墳で、直径 10m 前後を測るものが多く、いずれも周溝を持つ古墳であるとみられています。埋葬施設は、A 地区同様に多様な形態が確認されており、出土遺物は、鉄製馬具や青銅製馬鐸、6 世紀の土師器などがあります。埋葬施設の構造が A 地区のものと共通する点や出土した遺物の年代から 6 世紀中頃に築造されたと考えられています。

真野古墳群説明板

真野古墳群を説明する玉川氏

南相馬市博物館

この地域の歴史、自然史、考古、民俗に関する分野の展示となっています。自然史では南相馬市の地形、地質、化石（古生物）、野生の動植物、天然記念物について紹介されています。メインは相馬の伝統行事である野馬追の展示で、迫力のある馬の模型とＤＶＤが上映されており、美麗な甲冑等が展示されていました。展示は南相馬市の歴史の原始・古代では旧石器時代から平安時代まで、市内の遺跡から出土した資料を中心に展示されており、今回は、現在開催中の企画展「震災復興と発掘調査」中心に見学しました。

南相馬市博物館にて

会事業報告

❤令和4年度うきたむ考古の会総会

令和４年５月 14 日(土)にうきたむ考古の会の総会を３年振りに開催することが出来ました。出席者は９名と少なかったのですが、熱心な討議が行われました。会長挨拶に続き、座長に村山副会長が選任されて議事が進行しました。2021 年度の事業と決算の報告が承認された後、2022 年度の事業案と予算案についての審議が行われ、原案どおり可決されました。この中では考古の会が共催となっている館事業の「遺跡の旅」に関するアンケート調査の結果が報告されました。参加を希望した会員は数人に留まったことから、今年度も開催を断念することで了承を得ました。また、この代替措置として、会の自主事業として今

年の役員会で参加者一同がよかったとの感想が述べられた長井の町場巡りの第 2 弾を開催することで了承が得られました。

❤考古の会自主事業

「三淵渓谷通り抜け参拝と長井まち歩き」

伝説の地、秘境三淵渓谷をゴムボートでめぐった後、重要文化的景観に選定された長井のまちを黒獅子の里案内人とともに歩きました。参加者は会員８名と引率の館長と伊藤学芸員の合計 10 名でした。

ゴムボートに乗っての三淵渓谷の通り抜けは圧巻の景色でした。距離はさほど長くはないのですが、幅の狭い断崖絶壁の息を飲む景色に言葉を失いました。秋の紅葉時に、また見に来たいと参加者一同感動しました。

三淵渓谷

道の駅に戻った後、各自昼食を摂り、４月の役員会でも案内して頂いた渋谷いちさんの素晴らしい説明を聞きながら、名所、あやめ公園へ。長井古種と呼ばれる数々の花菖蒲を堪能し、特別に公演された總宮神社の獅子舞を鑑賞しました。

アヤメ公園での説明と総宮神社の獅子舞

あやめ公園で数々の長井古種の花菖蒲（あやめ）の説明を受けた後、小出地区の街歩きへ。

最初はつつじ公園。天明の飢饉に始まる造園で今は見事な白つつじが咲き誇る松ヶ池公園となったといわれています。小出地区は舟運の恩恵が宮地区に後れを取ったが、江戸末から明治に掛け、宮を上回る隆盛となり、多くの豪商が軒を連ねることになったということです。その多くが、往時のまま残されている景観は見事でした。

水の長井と言われるように、小出地区の張り巡らされた多くの水路には、立体交差するものがあり、溢れた水を更に、別の水路で受けて流すなどの知恵がみられるところもありました。ここは、重文景調査の委員長であった入間田宣夫先生が絶賛した景色です。その水路には早くも梅花藻が開花していました。街中で到る所に梅花藻が開花している都市は極めて珍しいのではないでしょうか。４月と今月、花の長井の桜とあやめを堪能できました。

❤令和4年度の体験事業について

例年同様５月から各種体験事業が開催されています。

１　「勾玉・弓矢・石器をつくろう」

今年度は５月 28 日(土)・７月９日(土)・11 月 3 日(火・祝日)の開催で、目標 は 70 名に設定していました。これまでに、２回が終了しました。

５月 28 日は勾玉が 14 人、弓矢が６人、石器が４人、７月９日は勾玉３人、弓矢が３人、石器が４人と少なく、２回が終わった時点での参加者は 30 人に留まっています。

２　「ガラス玉をつくろう」

６月 11 日(土)・11 月 26 日(土)の２回開催で、目標 を 15 組としています。６月 11 日

は 15 組で 34 人の参加がありました。

３　「コースターをつくろう」

６月 18 日(土)・12 月３日(土)の２回開催で、目標 10 名としていますが６月 18 日の参加者はありませんでした。

４　「古代風ブレスレットをつくろう」

６月 18 日(土)・12 月３日(土)の２回開催で　目標 10 名としています。６月 18 日は観光協会主催の「駅からサイクリング」の体験に選ばれたため、37 名の参加がありましたが、一般の参加者はありませんでした。

５　「大人の自由研究１－カラムシから繊維をとろうー」

７月 16 日(土)の開催で目標を５名としましたが、参加予約がなく開催を断念しました。

展覧会のご案内

❤特別テーマ展

高瀬山の考古学Ⅰ－旧石器時代・縄文時代」

１　**開催趣旨**：山形県内で最も広い面積の発掘調査が行われた高瀬山遺跡では旧石器時代から中世までの遺構や遺物が検出されている。今回は、その１として旧石器時代から縄文時代の調査成果を展示する。

２　**展覧会名**：令和４年度特別テーマ展「高瀬山の考古学Ⅰ－旧石器時代・縄文時代」

３　**開催期間**：令和４年６月 11 日(土)～9 月４日(日)
　　＊開館時間　9:00～16:30（最終入館時間は 16:00 まで）

４　**会　　場**：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館企画展示室

５　展示構成

第１章　旧石器時代の高瀬山

展示資料：(1)高瀬山遺跡鉄塔地区出土旧石器　7 点
(2)1 期調査区出土旧石器　46 点
(3)H0３期調査区出土旧石器　60 点

第 2 章　縄文時代早期・前期の高瀬山

展示資料：(1)1 期調査区出土の早期の土器片　25 点
(2)H0 調査区出土の早期の土器片　1 点
(3) H0 調査区出土の前期中葉の土器片　7 点
(4) H03 期調査区出土の前期後葉の土器片　1 点
(5)1 期調査区出土の前期後葉の土器　40 点
(6)1 期調査区の土偶　6 点

第 3 章　縄文時代中期の高瀬山

展示資料：(1)H03 期調査区出土の前葉の土器　5 点
(2) H0 調査区出土の中葉の土器片　3 点
(3) 1 期調査区出土の後葉の土器　7 点
(4)SA 調査区出土の後葉の土器　1 点
(4) H0 調査区出土の後葉の土器　23 点
(5)H03 期出土の後葉の土器　2 点

第４章　縄文時代後期の高瀬山

(1)1 期調査区出土の前葉の土器　1 点
(2) H0 調査区出土の前葉の土器　13 点
(3)H03 期調査区出土の前葉の土器　4 点
(4) H0 調査区出土の中葉の土器　21 点
(5) H0 調査区出土の後期の時期不明の土器　7 点
(6)H0 調査区の土偶・岩偶　21 点

第５章　縄文時代晩期の高瀬山

(1) H0 調査区出土の晩期の土器　18 点

第６章　縄文時代の石器

(1)1 期調査区の石器　148 点

展示資料総数　467 点

６　特別テーマ展関連事業

考古学への関心の裾野を広げる事業

（１）館長講座　「高瀬山の考古学」を開催。

特別テーマ展に展示する資料と出土遺構群について７月の日曜日に２回に分けて解説・説明する。

第１回（７月３日（日））　参加者４名

・旧石器時代・縄文時代草創期の高瀬山遺跡

第２回（7 月 10 日（日））　参加者７名

・縄文時代前期から晩期の高瀬山遺跡

８　展示図録

オールカラーＡ４版　55 頁　6 月 11 日付けで 7 月 22 日に刊行されました。

頒布価格　500 円（絶賛頒布中）

❤kid’ｓ　考古学新聞コンクール全国巡回展

9 月 3 日（土）～9 月 24 日（土）

令和３年 11 月１日に審査結果が発表されました「第２回 kid’s 考古学新聞」の入賞作品の巡回展を、昨年に続き、開催します。今回は山形県内在住児童の作品はありませんが、子ども達の勉強の成果をぜひ御覧になっていただきたいと思います。

❤第 30 回企画展

「最上地域の縄文時代」

開催要綱

1. 趣　　旨　　西ノ前遺跡出土の土偶（縄文の女神）の国宝指定 10 周年に協賛し、最上上地域の縄文時代の調査成果を展示します。

2. 名　　称　　「最上地域の縄文時代」
3. 主　　催　　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
4. 期　　間　　令和４年９月 10 日（土）～令和４年 12 月４日（日）
　　＊開館時間は９：00～16：30
5. 会　　場　　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　企画展示室
6. 展示構成

第１章　「縄文時代早期・前期の最上」とし、早期及び前期の出土品を展示します。真室川町滝ノ沢山遺跡、新庄市仁間磯ノ沢遺跡､福田山Ａ遺跡、大蔵村上竹野遺跡から出土した早期中葉から後半、そして、前期初頭の土器片。前期中葉から後葉では金山町太郎水野 1 遺跡と最上町水上遺跡の土器片を展示します。合わせて早期の外久保遺跡の石器も展示します。展示総数は 98 点です。

第２章　「縄文時代中期の最上」とし、前葉の重要文化財の水木田遺跡の土器と縄文の女神と共に出土した中葉の西ノ前遺跡の土器をメインに、同時代の新庄市中川原Ｃ遺跡、最上町かっぱ遺跡の土器を展示します。また、後葉から末葉では鮭川村小反遺跡や真室川町釜淵Ｃ遺跡、中台遺跡の土器を展示します。展示総数は 68 点です。

第３章　「縄文時代後期の最上」として、後期初頭の新庄市立泉川遺跡、水上遺跡、釜淵Ｃ遺跡、前葉では釜淵Ｃ遺跡、かっぱ遺跡の土器を、また、中葉ではかっぱ遺跡、後葉では上竹野遺跡の土器を展示します。展示総数は 37 点です。

第４章　「縄文時代晩期の最上」として、前葉・中葉・後葉前半では釜淵Ｃ遺跡の各時期の土器を、最終末の後葉後半では上竹野遺跡の土器を展示します。展示数数は 48 点です。

第５章　中期前葉の水木田遺跡、後葉の小反遺跡、後期のかっぱ遺跡、晩期の釜淵Ｃ遺跡Ｃ地区の石器から、生産用具の変遷を考えます。展示総数は 254 点です。

第６章　最上町材木遺跡から出土した翡翠に似た「緑色石製」の玉と土器、それに県内外の緑色石英製の関連資料、金山町から出土した大形の石斧も展示します。展示総数は 87 点です。

7. 関連事業
　(1) 第 22 期考古学セミナー

第30回企画展「最上地域の縄文時代」の開催にちなみ、最上地域の縄文時代早期から晩期までの遺構や遺物について先生方からお話しをうかがいます。

受講人数は感染予防対策上、各開講日とも20人とします。第1回開講日の1ヶ月前から、電話で申し込みを受け付けます。開講時間は各日とも13:30～16:00です。

第1回(9月25日(日))

・最上地域の縄文時代早期・前期の遺構と遺物

考古資料館館長　　渋谷孝雄

・最上地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　菅原　哲文　氏

第2回(10月2日(日))

・最上地域の縄文時代中期後葉の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　水戸部秀樹　氏

・最上地域の縄文時代後期の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　水戸部秀樹　氏

第3回(10月9日(日))

・最上地域の縄文時代晩期の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　小林　圭一　氏

・縄文時代の緑色石英製玉とその分布

秀明大学教授　　三澤　裕之　氏

(2) 記念講演会

演題　「最上地域の縄文時代」

講師　阿部明彦氏（山形考古学会会長）

期日　11月13日（日）